

化粧品通販ビジネス実践講座

Vol.97
オファー価格の変更で広告のレス改善

船生千紗子(ふにゅう・ちさこ)

通販に特化した広告代理店を経て、株式会社通販総研に入社。現在、化粧品通販新規参入支援、化粧品通販企業向けに新規顧客獲得、リピート顧客育成による売上アップ支援を行っています。クライアントの強みを伸ばし、着実な成長を促すことをモットーにしています。



年々、広告の効率が悪くなり、多くの企業が以前のような効率で新規顧客を獲得できなくなっています。

各社、クリエイティブの改善、媒体の精査、ターゲティングの見直しなどに取り組んでいる。これは思いですが、それでもなかなか改善しないときは、広告オファー価格の見直しを行うことも視野に入れていく必要があります。

もちろん、価格を下げ過ぎると、商品価値の低下や2回目購入率に影響を与えますので、やみくもにオファー価格を下げれば良いというわけではありません。

優に上回る結果となりました。しかし、EC/通販ビジネスは、新規顧客を獲得できなければ何も始まりませんので、レス改善の1つの要素として検討材料として持つべくと良いです。

化粧品通販会社A社は、お試し品にて新規顧客を獲得しています。クリエイティブ内容の改善等は行っていたのですが、目標獲得単価まであと一歩及ばないといった状況でした。

そこで、一度、お試し品のオファー価格を下げて広告を実施したところ、目標獲得単価を

せつつもお試し品の価格を500円程度下げてみて、まずは、1度商品を試してもらう人数を増やすことを目指しました。結果、お試し品を購入者は増え、顧客獲得単価は60%改善しました。

もともと、この会社は初回同梱物、フォローDM、ステップメールの準備をしっかりと行っていました。おかげで、お試し品購入から定期購入へつなげていく流れが上手にいき、結果、定期顧客数を積み上げることができました。

健康食品通販会社Cは、Web広告、紙広告などさまざまな媒体を使って、クリエイティブテストを繰り返しつつも思うように顧客獲得単価の改善が進みませんでした。

社は、Web広告、紙広告などさまざまな媒体を使って、クリエイティブテストを繰り返しつつも思うように顧客獲得単価の改善が進みませんでした。

資生堂

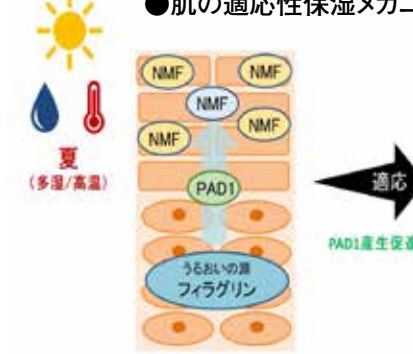
乾燥環境に対する肌本来の適応メカニズムを解明

資生堂は、乾燥環境において、肌本来に備わる「環境と共生する保湿力」により、肌内部で天然保湿因子(NMF)を生み出す酵素(PAD1)の産生が促進されることを発見した。また、PAD1の産生を高め、肌本来の保湿力をサポートする成分を新たに発見した。今後、乾燥環境への適応力・抵抗力を高め、健やかで美しい肌を維持する化粧品を開発を目指す。同社は、「環境を受け入れて調和し美を実現する」という新発想の技術をさらに進化させ、第1弾の紫外線との共生技術、今回の低湿・低温度といった環境要素に続き、今後も様々な環境を味方にする技術の開発に挑戦していく。

独自成分「アクアインプール」にNMF産生酵素の発現を促す効果

高温時の発汗作用や、紫外線暴露時のメラニン産生など、肌は外的環境に対する適応力を進化とともに獲得してきたが、これまで低湿・低温度がもたらす乾燥環境下における肌の適応力については十分に明らかになっていなかった。そこで同社は、40年以

や「汗」といった経路から主に供給されている。今回、夏と冬における同人物のNMF存在量を比較した結果、フィラグリン由来NMFは夏より冬に多く存在していることがわかり、汗量の減少に不足しがちなNMFがフィラグリン由来で補われていることが示唆された。



●肌の適応性保湿メカニズム(イメージ図)

日本メナード化粧品

「ストレスの感じやすさ」に関わるDNAの特徴を発見

日本メナード化粧品は、これまでに多くの日本人女性のDNA解析から、「シミのできやすさ」や「肌あれのしやすさ」など肌質に関わるDNAの特徴(SNP)や、将来のシワやたるみに関わるDNA

IIIの特徴を見出してきた。今回の研究では、1200人の日本人女性を対象に、個々において約630万箇所の遺伝情報の解析を行い、「ストレスの感じやすさ」に関わるSNPを発見した。また、日頃ストレスを強く感じている人ほど、肌状態や

顔のシワ、たるみの状態が悪いことを確認した。なお、今回の研究成果は、国際科学誌「Skin Disease」オンライン版に掲載された。ストレスに対する自身の遺伝的な傾向を推測する技

術の開発や、ストレス予防に着眼した新しい美容提案方法などへの応用が期待される。

ストレスが美容の大敵であることは多くの研究で明らかになっていたが、ストレスの感じ方の個人差を生み出す要因については明らかにしていなかったため、今回、「肌の状態」の関係に着



目し、研究を行った。研究では、1200人の日本人女性(平均年齢49.0歳)の唾液サンプルからDNAを抽出し、DNA解析を行うと同時に「日頃のストレス」と「現在の肌状態」に関するアンケートを実施した。その結果、「日頃のストレス」と「現在の肌状態」に関するアンケートの結果、日頃ストレスを感じやすい人は、顔のシワ、たるみの状態が悪いことを確認した。なお、今回の研究成果は、国際科学誌「Skin Disease」オンライン版に掲載された。ストレスに対する自身の遺伝的な傾向を推測する技

術の開発や、ストレス予防に着眼した新しい美容提案方法などへの応用が期待される。

ヤグルマギクにシミ抑制効果を発見



メノサイトに由来する「SDF-1」(エプidermal derived factor-1)がメラニン生成を抑制していることが報告されている。そこで、ノエビアでは真皮を起点としたシミ抑制メカニズムを探索した。研究は、メノサイトに存在する「SDF-1」の発現を高めることで、一般的に表皮に着目して行われる。一方、近年、真皮から分泌されるケモカインの一種「SDF-1」が、UV照射によって老化モデルを作製して実験を行ったところ、老化により「SDF-1」が減少することを確認した。次に、表皮角化細胞と表皮メノサイトから再構築した皮膚モデルを用いて、「SDF-1」

が減少することを確認した。次に、表皮角化細胞と表皮メノサイトから再構築した皮膚モデルを用いて、「SDF-1」